

戦争のない世界へ

やまもと

れな

山本 麗菜

私には今年百歳になった曾祖母がいる。曾祖母は時折戦争の話をする。曾祖母には兄がいたが、戦地へ赴きそのまま帰らなかったそう。曾祖母はもしかしたら、今もどこかで兄は生きているかもしれない、生きていてほしいと願っているようだ。戦争の話をする曾祖母はとても悲しそうで、つらそうにみえる。きっと世界中の戦争体験者も同じだろうと私は思う。このように悲しみしか生まない戦争をなぜ人間はするのだろうか。

「思いやり」という言葉を辞書で調べてみた。「相手の気持ちになつて考えること」とある。自分以外の人の立場になつて物事を考え、気遣うことができれば、他人の痛み、悲しみ、苦しみを自分の事のようにとらえる事ができる。世界中の人が思いやりをもてばきっと戦争はなくなる。なくなつてほしいと私は思う。

日本は今年戦後八十年を迎える。日本の戦争体験者は年々減少している。これは、日本が戦争をしていない証であるが、戦争

体験者の話を聞く機会が減少しているという事でもある。戦争の悲惨さや、平和の大切さを後世に伝える事も戦争を未然に防ぐ為にはとても大切なことだと思う。私達戦争未経験者が戦争の愚かさを理解し、同じ過ちを繰り返さない為にも戦争を他人事として捉えるのではなく、現実に取り得る事として考え、家族や友人と戦争のない平和な世の中について日々話をする事も大切だろう。

曾祖母は百歳を過ぎ認知症になった。私の事も分からないらしい。しかし戦争の事は、覚えている。戦後八十年経つてもいえない心の傷を負わせるのが戦争である。曾祖母と同じ心の傷を負う人を増やしてはいけない。増やさない事が私達の使命だと思う。その為に何ができるのか、何をすべきなのかを日々考え行動したい。そして日本の平和、世界の平和の為に「思いやり」の気持ちを持って生きていこうと思う。